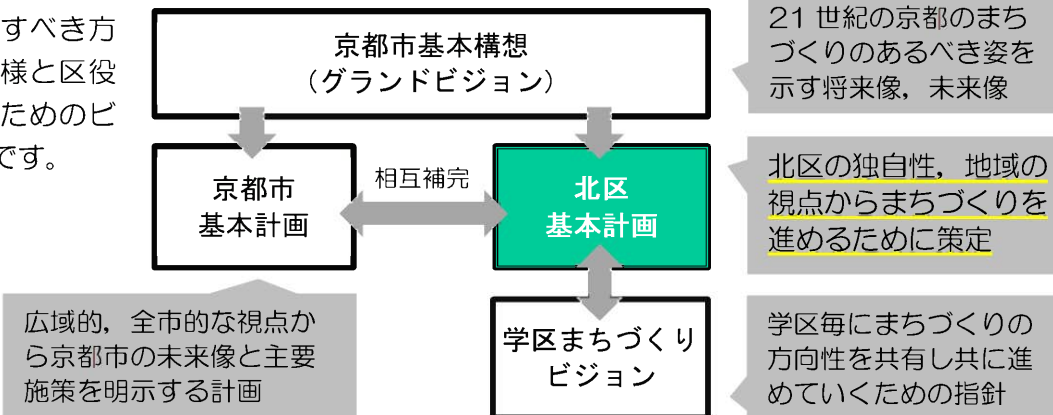


北区基本計画 骨子案

1. はじめに～北区基本計画とは

■計画の位置づけ

北区基本計画は、北区の将来の姿や目指すべき方向性を区民の皆様と区役所とが共有するためのビジョン（指針）です。



■目標年次

北区基本計画は，令和7（2025）年度を目標とした5年間の計画です。

■計画策定の目的

新しい北区基本計画は，SDGs，レジリエンスの理念や過去の経過を踏まえつつ，区民一人ひとりが，“まちとのつながり”があってこそ『豊かな暮らし』が実現できると感じられる，そんなまちの創造を目指して策定します。

【これまでの動き】

平成23年に北区基本計画を策定し，この計画に基づくまちづくりを進めてきました。平成28年には，区民の皆さんが主体的に取り組むための「北区民つながるプログラム」を策定。社会状況の変化に対応した区民力の向上，多様な主体の連携促進を目指して，“つながる・つなげる”をキーワードにまちづくりを展開してきました。その結果，①オール北区によるまちづくりの進展，②まちづくりに参画する区民の増加，③区内4大学との連携強化，④学区内各種団体間の連携強化等を生み出しています。

2. 北区はこんなまち

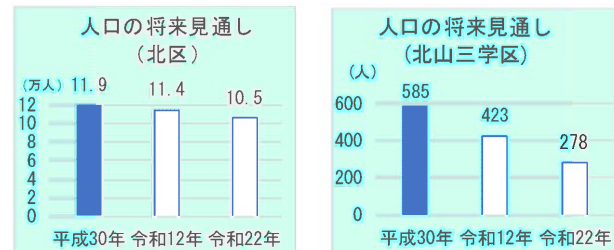
■自然環境が豊か～区面積の80%以上が森林～

- ・北山の山並み，北山杉の美林景観
- ・賀茂川の水辺環境，森林浴も楽しめる船岡山
- ・深泥池生物群集等の天然記念物 等



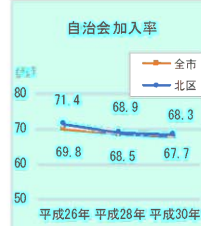
■人口 ～歯止めがかからない人口減少傾向～

- ・少子化による人口減少傾向が今後も継続見込み
- ・とりわけ，北山三学区は一層減少の見込み



■地域コミュニティ～自治会加入率70%割れ～

- ・自治会等推計加入率が減少傾向（H30年度 68.3%）
- ・地域まちづくりの指針「学区まちづくりビジョン」の全学区での策定を推進。自分ごとのまちづくりを支援



■大学のまち ～区民の3.4人に1人は学生～

- ・大学生数4.0万人（H30年度）
※ 北区にキャンパスがある4大学の学部等に在籍する大学生，院生，聴講生等の人数
- ・区内4大学と北区役所の間で包括連携協定や健康長寿，はぐくみ分野での協定を締結。大学，行政機関，地域の連携が進展



■防災 ～進む，万が一への備え～

- ・自然災害が多発する中，とりわけ北部山間地域，賀茂川周辺エリア，密集市街地での備えが重要に。
- ・障害のある方等，災害弱者への防災対策など，福祉面での地域連携が進みつつある。



■障害のある方～誰もが一層暮らしやすいまちへ～

- ・京都ライトハウスや京都盲啞院を前身とする府立盲学校が立地
- ・フナオカスタンダード等を通じて，障害者福祉事業所と学区との連携が見られる。



■子育て ～一層子育てしやすいまちへ～

- ・出生数が減少傾向の中，関係機関が連携し，子どもの世代毎に地域と親が交流する場を設定（「つながるフェスタ」等）
- ・子育てサロン等，地域による居場所づくりも進展
- ・保育園，児童館，小学校等の教育・福祉施設が多数点在



■お年寄り～いつまでも生き生きと暮らすために～

- ・高齢化率が市内3番目（R1年度 29.1%）
- ・北区オリジナル健康体操「Happy★キタエちゃん体操」や「インターバル速歩」の普及啓発等，区民ぐるみの健康づくりを推進



■歴史・文化を感じるまち～世界遺産が2つも～

- ・世界遺産はじめ多くの神社仏閣や文化財が点在
- ・五山の送り火等の伝統行事，能，狂言等の伝統芸能，茶道，華道等の伝統文化が身近な地域。年中行事等の生活文化も息づく。
- ・埋もれた歴史，文化に注目した取組を展開中（船岡山等）



■多様な産業～伝統産業・農林業から商店街まで～

- ・西陣織等の伝統産業，北山林業を取り巻く厳しい経営環境
- ・区面積の約3%が農地で，すぐき等の京野菜の生産が盛ん。
- ・空き店舗の増加等，商店街（9箇所）を取り巻く厳しい経営環境。一方，空き家や空き地の有効活用等の新たな展開も。
- ・地域企業のまちづくりに参画する機運が向上
※京都中小企業家同友会北支部会員数：52社



■まちづくり活動 ～多様な活動が展開中～

- ・効果的なカフェ事業の展開等により，自主的なまちづくり活動を発掘，支援
- ・近年，まちづくり提案支援事業への申請件数が増加。任意団体や個人の熱意と取組が，地域の自治活動と連携する事例も。

H27年度 29件 → R1年度 42件



北区基本計画 骨子案

3. まちづくりの方向性

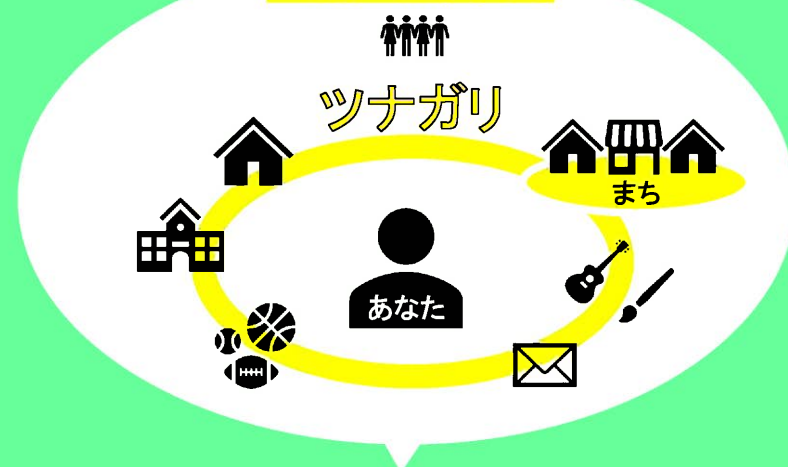
『まちとのつながりで、あなたの暮らしを豊かにしたい』（仮）

“豊かな自然の恵みと伝統ある文化の中で、人々がお互いに支え合い、活力を持って生き生きと暮らすまち”を実現するために

誰一人
“孤立”させない！

まちづくりの かんがえかた

つながりの1つとして
“まち”があります



家族とのつながり。友達や職場など時間を共にしたつながり。趣味やスポーツなど楽しみを通じたつながり。リアルでもバーチャルでも、私たちの周りには色々な人とのつながりがあります。

それらに加えて、同じように天気が変わり、道ですれ違うような距離感で空間を共有する、緩やかなつながりの1つとして“まち（地域）”があります。隣近所のお付き合いから、町内や学区（小学校の通学区）の行事、商店街での買い物や北区でのイベントなど、日々の暮らしに、色々なかたちでのまちとのつながりがあります。

暮らしが便利になりました
“まち”との関係も変化しました



働き方（共働き、フレックスタイム、在宅勤務…）や家族の形態（核家族化、単身や独居…）など、暮らしが急速に変化しています。WEBやSNS、スマホ利用が日常的になり、日々受け取る情報も複雑化し、一人ひとりの価値観もこれまで以上に様々です。こうした変化の中で、私たちの生活は便利になりました。

一方、便利になったことで、これまで当たり前とされていた人とのつながりやまちとの関係が希薄化し、“孤立”などによる様々な不安も生まれています。

あなたに共感する
“まち”を育みます



困ったことがあっても、誰かに相談することなく情報やサービスで解消することが多くなってきました。そうした便利から得ることができる安心があります。また、子どもの見守りや介護の相談、地域防災、趣味やスポーツの仲間など、つながりによって得ることができる安心もあります。そうした安心が、私たちの暮らしを豊かにしてくれます。

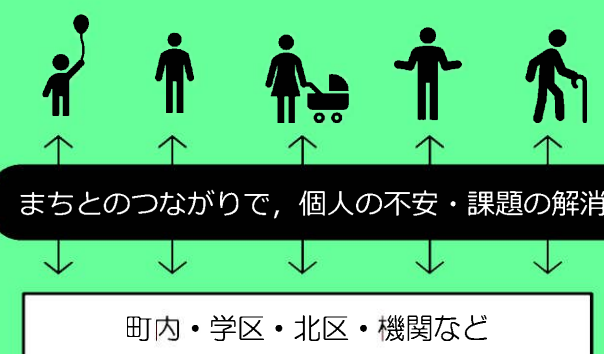
私たちは生まれてから最後の日まで、成長の段階に応じて喜びも不安も移ろいます。そんなライフステージに応じて安心を育む“これからのまちとのつながり”を再創造（re:make）していきます。

まちづくりのすすめかた

一人ひとりの暮らしに寄り添いながら“北区が目指すまちの姿”を実現するために、区民の現状に共感し、“つながり”を通じてまちにできることをライフステージごとに整理しました。ライフステージは右記の10区分としますが、まちには、あなたも含めた子どもから高齢者まで多様な人々の暮らしがあり、世代や考え方も違えば、楽しいことも困りごととも異なります。そうした、一人ひとりへ共感すること（人のことを思いやる自発的な態度）を大事に、誰もが必要なときに、まちとのつながりが持てる環境を整えるため、地域や団体、各機関が連帯してまちづくりを推進していきます。

ライフステージ

- | | |
|----------|----------|
| 1. 子ども | 2. 大学生 |
| 3. 若者 | 4. 子育て世代 |
| 5. 働き世代 | 6. 前期高齢者 |
| 7. 後期高齢者 | 8. 北山3学区 |
| 9. 障がい者 | 10. 外国人 |



4. リーディングプロジェクト

北区基本計画の実施に当たり、先導的な役割を果たすプロジェクトを記載

5. 評価指標

計画の進捗状況や効果を把握するために設定する指標を記載

6. 計画の推進体制

（計画の進行に当たり、関係者の調整を図りながら効果的に推進する役割を担う体制について記載

参考資料

まちづくり会議メンバーの名簿や計画策定の経過を記載

大学生
18～22 歳

“せっかく北区に住んでるのに、北区らしさ経験してる？”

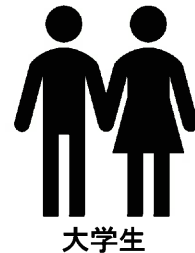
4つの大学に在籍する約4万人の大学生。将来への期待と不安を抱く中、
北区に来て良かったと思えるような出会いや経験を、これからまちがつくっていきます！

誰一人

“孤立”させない！

つながりが生まれると

- ・色々な世代や分野の人との交流が生まれ、自分の将来が描けるかも
- ・大学での学びをまちで実践する機会が生まれ、専門性が高まるかも
- ・災害時の不安解消や、身近な社会課題の解決など、楽しく過ごせるかも



大学生

大学生とまちの

これからのつながり



まち

- ・地蔵盆や夏祭りなど、地域の取組に大学生のアイデアや行動を活かせるかも
- ・高齢者サロンや子どもの居場所など、地域福祉活動が充実するかも
- ・災害時に、若い力が活躍するかも

まちとのつながりかた

1. 多様な生き方に触れ、 将来への可能性を広げる！

学業が忙しく、大学と家とアルバイトの往来で、まちとの接点はない。回覧板に触れることがなく、地域行事や伝統行事の情報もない。そんな大学生が、学び経験したくなるような、まちでの出会いや交流の仕掛けとは？

まちにできること

1. 生き方や暮らし方、働き方も含めて、まちで気軽な相談や体験ができる機会をつくり出す
☛ 取組アイデア：『多世代の交流会や文化体験会等の開催』
2. 地蔵盆や夏祭り、学園祭などのイベントを、大学生と地域が互いに知り、また気軽に参加できる仕組みを検討します
☛ 取組アイデア：『大学生に伝わる広報板の有効活用』
3. 避難方法の周知や防災訓練など、学生のアイデアやネットワークを活かした地域防災に取り組みます

2. 大学での学びを、 まちで実践・発表する！

子どもや高齢者のサポートやイベントの賑わいなど、いくつか生まれているゼミやサークルとまちとの連携。こうした連携が当たり前になるような、気軽な交流や情報交換など、大学とまちが互いに知り合える仕組みとは？

まちにできること

1. 学生、大学、地域、企業、区役所等の多様な主体が、互いの課題や資源を交換できる場づくりを進めます
☛ 取組アイデア：『まちづくりプラットフォーム（仮）の構築』
2. 回覧板からラジオやSNSまで、多様なメディアを活用した、大学とまちの情報交換を図ります
☛ 取組アイデア：『まちづくりプラットフォーム（仮）の構築』
3. 4つの大学が楽しく交流することを目指した、地域や企業も参加するイベントを検討します
☛ 取組アイデア：『北区大学フェス（仮）の実施』

3. 『お役立ち情報』

いまでも、色々な取組や制度があります！

1 北区つながるワークショップ



「あなたの遊び心が、まちを楽しくするー」。といったテーマを掲げ、まちづくりに関心のある人が集う交流の場。学生の参加も多く、妄想やアイデアが膨らみます。対話を重ねる中で、新たなまちづくり活動に繋がっている事例も！

2 北区「WA（わ）のこころ」創生事業



北区ゆかりの文化人、大学、区役所が、北区に息づくほんまものの文化を肌で感じられるイベントを開催（年1回）しています。京都に通う大学時代の、大切な1ページになること間違いなし！

■取組事例 『and house』中川区の情報発信プロジェクト

過疎化が進む北山丸太の故郷“中川”を盛り上げようと、大谷大学志藤ゼミの学生さんが、NPO法人「HEROES」の協力を得て、オリジナルビール「京都・中川まんまビール！」を開発（北区役所は経費を支援）。

地元でお馴染みの「まんま茶」の香りも抜群。市内3店舗で販売しています！
収益の一部は、地域活動に活かされます。



北区基本計画 骨子案

働き世代
40～59 歳

“せっかく北区に住んでるのに、北区のまちに関わっている？”

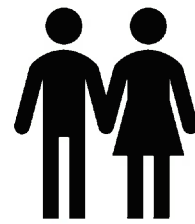
社会での経験を積み重ね様々なスキルや趣味、特技などを持つ働き世代。健康や老後の暮らしも気になり出す中で、北区に暮らしてよかったと思えるつながりを、これからまちがつくっていきます。

誰一人

“孤立”させない！

つながりが生まれると

- まちの魅力を発見できたり、
新たな人との交流や出会いがあるかも
- 仕事や趣味、家事のスキルや経験が活きる、
新たな活躍の場が見つかるかも



働き世代

働き世代とまちの

これからのつながり



まち

- まちづくりの仲間が増えるかも
- 働き世代の多様なスキルや経験が活か
せて、まちがもっと元気になるかも

まちとのつながりかた

1. まちにある機会や資源を活かして、 いつまでも楽しく健康に暮らす！

仕事や家庭に忙しく過ぎる日々。そんな働き世代が
これからも楽しく健康であり続けるために、まちでの
学びや交流を育む仕掛けとは？

まちにできること

1. 講座やイベントにおいて、参加しやすい日時、健康や料理、スポーツなど興味湧くテーマ設定など、働き世代に応じたプログラムづくりを図ります
2. SNS や各種メディアを活用し、文化やまちづくりなどに関する情報を分かりやすく発信します
💡 取組アイデア：『文化・まちづくり情報を発信する「大人の土曜塾」(仮)の検討』

2. 仕事や趣味、家事などの、 スキルや経験をまちに活かす！

これまでに培われてきた多様な経験やスキル。
気軽に参加や協力ができて、経験も活かせるような、
まちづくりや社会貢献の仕組みとは？

まちにできること

1. 趣味や特技を活かし、楽しみながら地域課題解決を図るような、気軽に参加できるまちづくり活動を推進します
💡 取組アイデア：『交流や学びの機会づくり、相談対応や補助制度等のサポート体制を整備』
2. 社業を通じて地域と共に発展することを理念に掲げる「地域企業」と、まちづくりにおけるさらなる連携を図ります
💡 取組アイデア：『学区-企業間の情報共有、企業の地域行事への協力等』

3. 『お役立ち情報』

いまでも、色々な取組や制度があります！

■ 北区魅力再発見事業

学区に暮らす住民がルートを開発し魅力を発信する、手づくりのウォーキングツアーです。自分が暮らすまちの見所や歴史を改めて発見する機会になり、普段は見られない魅力に触れられると参加者からも大好評！毎年1つの学区を取り上げ、これまで6つの学区（R元年度末）で実施してきました。ぜひ、ご参加を！

■ 取組事例

『紫竹SPAT』紫竹プラスアクションチーム

自治会活動の活性化を目指す30～40歳の若手有志の会（R元年発足）。自分達も楽しみながら、自治連合会創立10周年記念イベントはじめ各種行事の企画、実践中！



■ 取組事例

『パトラン』パトロール・ランニング



赤色のTシャツが目立ちランニングのグループ。走ることに合わせて地域の見守りも！と安心安全に取り組まれています。全国で展開され、令和元年夏頃には、区内初のグループが大将軍学区で発足。楽しみながら、ユルくまちに貢献できる好事例ですね。